

論文内容の要旨

報告番号		氏名	水塚貴満
New System for the Classification of Epiphyseal Separation of the Coracoid Process: Evaluation of Nine Cases and Review of the Literature (和訳) 烏口突起骨端線離開の新分類: 自験例9例と過去の論分のレビューから			

論文内容の要旨

【はじめに】烏口突起(CP)の骨端線離開は極めて稀な外傷であり、損傷形態、治療法及び機能予後を反映した分類が存在していない。当センターで治療を受けた9症例と、過去の文献で報告されている28例をretrospectiveに調査したところ、受傷部位に応じて3つのタイプに分類することができた(Type I:肩甲骨関節窩の上方部を含む烏口突起基部、Type II:烏口鎖骨靭帯(CCL)付着部、Type III:烏口突起先端部)。

【対象と方法】37症例のretrospective studyで、性別、年齢、受傷原因、受傷機転、損傷部位、肩甲帯周囲の合併損傷、治療方法、および予後に関して調査し、Type別に統計学的処理を行うことで、分類の妥当性を検証した。

【結果および考察】Type Iが最も多く(76%)、肩甲帯周囲の合併損傷および受傷機転は、Type I、II、とType IIIの間で有意差があった。合併損傷である肩鎖関節(AC)脱臼の治療法では、Type IとType IIIの間で有意差があった。Type I、IIは、主にAC脱臼などの肩甲帯周囲の合併損傷と関連があり、Type IIIは肘関節の抵抗性屈曲により引き起こされる特徴がある。Type IIIは手術的加療が必要であるが、Type IとType IIでは、保存的治療または手術的加療のどちらが最適であるかは議論の余地があり、結論は出ていない。我々が提唱する新しい分類法は、CPの骨端線離開の臨床的特徴、画像所見、および治療法をシンプルに反映している。

【結語】烏口突起骨端線離開損傷の損傷部位に応じて、臨床的特徴にいくつかの違いがあることに気づき、本損傷の新分類を開発するためにこれらの違いを調べることを目的とした。この分類を引用することで、烏口突起骨端線離開損傷に関する臨床医の意識が高まり、適切な診断及び治療法の開発につながりものと考えられた。